

新潟大学&東海大学

キャリア意識形成合同研修『コミュニケーション力強化合宿』

新潟大学教育・学生支援機構キャリアセンター 准教授 西條秀俊

東海大学キャリア支援センター次長(同文学部アジア文明学科教授) 内藤 耕

企業が採用選考をはじめ人材マネジメントにおいて重要な項目として考えているコミュニケーション力ですが、最近の若者はその能力が不足していると言われることもあります。英語力や情報リテラシーに優れた人も多い一方、人と人とが顔を合わせる場面での対人関係を苦手とする若者は増える傾向にあるのかもしれない。

新潟大学と東海大学では、学生のコミュニケーション能力を高め、キャリア意識形成を図ることを支援するイベントとして、「コミュニケーション力強化合宿」を共催しています。今年度、合同開催研修としては2回目となる合宿が9月に行われました。その内容をご報告いただきました。

1 実施の経緯、目的及びコンセプト

この研修は、キャリア教育の新たな取り組みとして、学生の夏休みを利用し、低学年次生(1・2年生)に、これからのキャリアを考えるきっかけを掴むこと、及びコミュニケーション力強化を目的としたものです。新潟大学は今年度6回目の開催、東海大学は今年度2回目の開催になります。昨年度からは、キャリア・就職支援協定を締結している両大学の学生による合同研修合宿として実施しています。

その内容は、「将来のキャリアを意識するために、まず自分を知ろう、そのためにも他者を知ろう」、「自分のこれからを考えるために、大学生生活において目的意識をもとう」と、グループワークなどを通して、参加したメンバー同士が「聞く、話す、考える」ことを行



う体験型合宿研修です。

就職支援協定を締結している両大学では、教職員も「東海大学及び新潟大学就職・キャリア支援研修会」を1泊2日で毎年開催しており、こちらも今年度8回目を迎えます。平成23年度は東海大学からは29名、新潟大学からは33名の就職・キャリア支援や学生活動支援を担当する教職員が参加し、講師等3名を含め65名という大合宿研修会となりました。

2 今年度の実施内容

今年度は、9月13日、14日、15日の3日間の日程で、独立行政法人国立女性教育会館において、「平成23年度低学年次対象キャリア意識形成合同研修『コミュニケーション力強化合宿』」と題して開催しました。東海大学からは学生33名、学生スタッフ2名、教職員3名の計38名、新潟大学は学生23名、学生スタッフ2名、教職員3名の計28名、両大学で計66名が参加しました。



キャリア意識の向上とコミュニケーション能力の向上という二つの目的を達成するために実施した内容は、大きく四つに分けられます。まず第二に、グループワークを通じたコミュニケーション体験です。基本となる傾聴・被傾聴体験を最初に設定し、相手に対して受容的態度をとることの重要性を気づかせました。また、自らの価値観の確認を、価値に関わる単語が書かれたカードを用いて行ったり、合意形成のワークを通じて他者の意見を受け入れる訓練を行いました。体育館でのワークもいわば身体を使ったコミュニケーション体験として用意しました。

第二に、キャリアについて考えさせるワークです。「おカマのを使ったゲーム」で、卒業後の人生を展望させました。また、画用紙3枚に「将来の夢」をまとめさせ、グループ内で発表させました。3枚にまとめさせることで、ストーリーをもって話を組み立てていく訓練としました。これらのワークは、キャリア意識の向上に結びつくと同時に、



【合宿参加スタッフ】 新潟大学教育・学生支援機構キャリアセンター 准教授 西條秀俊
新潟大学学務部キャリア支援課 主任 鈴木誠之
新潟大学学務部キャリア支援課 課員 佐藤芳子

コミュニケーション能力の発揮にもつながることを意図しました。

第三として、それまでを受ける形で2日目の夕方から夜にかけてキャリア・カウンセラーとのワークを実施しました。学生たちは「いまの自分」↓「これまでの自分」↓「これからの自分」の順に異なるグループの中で、違うカウンセラーに対して自分の思いを語っていききました。いわば傾聴のプロのファシリテートによって、自己開示の促進を狙ったものです。毎年、最も好評を得ているプログラムです。

最後は、お台場のフジテレビ見学と同社社員による講演です。講師が同社唯一の外国人社員ということで、普通の社会人とは異なつたキャリアパスの紹介となりましたが、日本人学生のキャリア選択にも大きく通じるメッセージを送っていただきました。

3 参加した学生の様子、感想

それぞれの大学で、朝、集合場所に集まつた時は、挨拶の声も小さく、緊張した面持ちでオリエンテーションに



臨む姿が見られ、我々スタッフも若干の不安を感じましたが、いざバスが発すると、全ての座席で会話が弾み、車中は賑やかな雰囲気になりました。そして、いよいよ研修先に到着し、両大学の学生が一緒になり、グループワークがスタート。すると、学生たちは笑顔でワークを進め、発表も個性的かつユニークな発言が随所に見られ、我々も一安心というところでした。

2日目の夜からのキャリア・カウンセラーとのワークでは、学生同士が車座での語り合いを体験しました。低学年次の学生にとっては、普段の日常生活から離れて真剣に自分と向き合える貴重な時間、機会になったようです。学生同士がこれからの目標をお互いに語り合い、学校、学部、学年を超えた参加メンバーとの仲間意識も醸成できたようでした。

合宿中も、それぞれの学生同士で固まつたりすることもなく、和気あいあいとワークに臨み、最終日、帰途につくためバスに乗り込む前には、抱き合つて別



れを惜しむ学生の姿や、連絡先を交換し合う姿があちらこちらで見られ、こちらも胸が熱くなりました。

申し込みの際には「他人とコミュニケーションをとることが苦手だから」という動機で参加した学生たちが、しっかり他者との関わりをもっている姿を見ると、学生の潜在的な力や可能性を感じました。

4 まとめ

3日間の研修を通して、これからの学生生活や将来を真剣に考えるところに、他学部だけではなく他大学の学生と寝食を共にする中で、さまざまな興味・価値観に触れたり、コミュニケーション能力を向上させる絶好の機会となりました。学生同士で真剣に真面目なことを話し合う経験が少ない学生たちにとって、お互いに「自己開示すること」、「フィードバックを受けること」

は新鮮な経験で、そのプロセスを通して、コミュニケーションの大切さや必要性に気づいてほしいと思います。コミュニケーションという言葉だけが一人歩きしている現代において、学生同士が愚直に語り合うことから何かを掴んだのではないのでしょうか。

また、コミュニケーションは人との関係性の中で初めて成り立つもので、上手い下手はないものかもしれません。コミュニケーション能力の向上を目的の一つにうたつてはいますが、たかだか2泊3日の体験で得られるものと言えは、「ちゃんと話せた」とか「聞いてもらえた」といった体験でしかありません。けれども日常ではなかなか話せない話題を、しかも大学も学部も違ふ多くは初対面の学生と共に話せたということは、秋からの学生生活に何かしら大きな刺激を与えてくれると思われるこの企画の成果はそれで十分であると捉えています。

【参加した学生からのコメント】

- ・長すぎる夏休みの中で、最も充実した3日間だった。
- ・コミュニケーション能力が足りないという自分への印象が少し緩和された。
- ・将来の自分について語るのはとても有意義だった。
- ・初対面の他大学の学生と寝食を共にする機会は、今後の人生でまずないことだと思う。
- ・本当にたくさんのことを学んだし、何よりも楽しかった。ありがとう。
- ・自分は人見知りで、人と話すのが苦手でした。この合宿に参加することで、その苦手が少し克服できたのではないかなと思います。
- ・何より楽しい合宿でした。後輩にも勧めたいと思います！
- ・自分の意見を伝え、相手に理解してもらえることを楽しいと感じた。
- ・将来のために何か始めてみようと思った。

【ファシリテーターとして参加いただいた社会人のコメント】

今野能志氏

NPO法人日本キャリア・カウンセリング研究会会長、日本カウンセリング学会認定スーパーバイザー、日本産業カウンセリング学会スーパーバイザー・トレーナー

私たちはキャリア・カウンセラーもしくはキャリア・コンサルタントという立場でグループ・ワークに参画しました。日本の学生の場合は親や先生からYou are OKというメッセージをもらわずに育っている場合が多いので、グループ・ワークのファシリテーターとしては学生たちの自己肯定感や自己信頼感を醸成することを意識しながらYou are OKというフィードバックを心がけました。学生たちの感想を読んでも、それが功を奏したようにも思われます。

【合宿参加スタッフ】

東海大学キャリア支援センター 次長／アジア文明学科 教授 内藤耕
東海大学キャリア支援センター 高輪キャリア支援課 課長 植野一朗
東海大学キャリア支援センター 湘南キャリア支援課 課員 磯部友紀恵